

朝の混み合ったバスに赤ちゃんを連れた母親が乗っていました。赤ちゃんが泣き出し、母親が必死にあやしますが泣きやみません。周囲の何人かが迷惑そうな視線を向けており、居たたまれなくなった母親が途中下車しようとした時、その様子を見たバスの乗務員が車内放送を使ってこう言いました。

「赤ちゃんが泣くのは当たり前のことですから、降りなくていいですよ」この乗務員の一言で、車内は「赤ちゃんが泣いたりぐずったりするのは当たり前」であるという雰囲気になり、その場が和みましました。すると、赤ちゃんも泣きやみ、親子は目的の地まで無事にバスを利用することができたそうです。

赤ちゃんを連れた母親には、周囲に迷惑を掛けてしまわないかと緊張している人も多く、その母親の緊張や不安が伝わった赤ちゃんが泣き出してしまうことも、よくあることです。そんな時に、この乗務員のように親子の様子を温かく受け入れてくれる人がいることで、母親はどれほど救われることかれません。

長時間泣きやまない赤ちゃんが近くにいたら、早く泣きやまなかなといら立ってしまうかもしれません。体調やその場の状況によって、そんな風に感じてしまうこ

「あたたかく受け止める」

ともあると思います。しかし、そこで迷惑そうな視線を向けるのではなく「赤ちゃんも緊張してるのかな？大丈夫だよ」などと声を掛けることができたらすてきだなと思います。

母親や父親だけで子育てするのではなく、地域や社会全体で温かく見守り、ときにはお手伝いできる親世代が素直にSOSを言葉や行動に表すことができ、それをやさしく受け止め、寄り添うことができる地域や社会にしていくことが大切ではないかと思っています。



＊このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

※お問い合わせは

人権啓発広報委員会

(☎880・6569) まで